(明治四十一年十二月廿三日第三種郵便物認可) 日刊 月曜及祭日之翌日休刊 明治四十四年七月二十日 (木曜日) 第七百三十四號

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

本紙定價 一枚金三錢 ▲一ヶ月[illegible] ▲三ヶ月[illegible] ▲六ヶ月[illegible] ▲一ヶ年[illegible]
月曜日及び大祭日の翌日は休日(日刊)
廣告料 ▲五號活字十七字詰一行[illegible]
編輯兼發行人 [illegible] 印刷人 [illegible]
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話[illegible]
仁川宮町三丁目 仁川支局 電話二一一番
東京市京橋區[illegible]七番地 東京支局

雜報

自十三日至十八日 風雨報告 (朝鮮總督府觀測所)

一、十三日午後黄河の河口に顯はれたる低氣壓は北東に進み十四日朝山海關附近を經て十五日朝滿洲長春の東方にあり此間十四日朝南岸木浦の西方に顯はれたる一低氣壓は東北東に半島を横斷して同夜日本海に入れるものありしを以て十四日より十五日に渡り各地に降雨ありたり其の量(粍)は左の如し(十三日午後五時三十分より)

	十三日	十四日	十五日
釜山	七	八三	三五
大邱	—	三四	—
木浦	五〇	七三	一六
仁川	—	一六	三四
京城	—	二八	一五
平壤	一	一	—
龍岩浦	—	四七	一
元山	—	八	三
城津	—	—	—

二、前記北滿の低氣壓の北滿州に去るや尋で十五日午後山西省に他の低氣壓顯はれ東北東に進み十六日朝白河の南方に達して北東に轉し同夜滿州に入り十七日朝長春の北東に進せり之れか爲めに中部以北に降雨あり殊に十七日平元地方に副低氣壓を生し爲めに大同江上流地方に多量の降雨ありたるもの丶如く平壤に於ては十七日午後より十八日朝に至る迄に百十粍余の降雨を測れり各地の量(粍)は左の如し(十八日午前五時三十分に至る)

	十六日	十七日	十八日
釜山	三	—	—
大邱	—	—	—
木浦	—	—	—
仁川	六	—	—
京城	四四	—	—
平壤	六	三五	七六
龍岩浦	四	一六	二
元山	一三	二五	一四
城津	—	—	—

各地の貸金状況

最近各地に於ける貸金業者一般の金融状況は區々として一定せざるも概して工事資金の需用少からず且一般の商況は不振ながらも多少荷動あり金融稍小繁の傾向なきにあらざるも内地小資本の流入は依然異る處なきも茲に平壤外六ヶ所の貸金状況を記せば左の如し

▲平壤 鮮人側の金融は漸次引締みたれど内地人側は例に依つて通道し貸金業者の手許潤沢かならざるも多少餘[illegible]鮮人側の影響を受け幾分か緩和したるもの丶如し

▲鎮南浦 嚮に一雜貨商の倒產せしより各貸金業者の警戒し來り且漸次夏季閑散期に近づきしかば市中小商人間の金融は頗る逼迫せり

▲群山 水田擔保の貸出圓敀勝なれば一般に金利を引下げ何れも放資に苦みつゝある狀況にして金融極めて閑散なり

▲馬山 工事資金は元より各方面共相應に資金の需要ありて金融極めて繁忙なり

▲大邱 土地賣買の盛なりし際多少思惑買の爲め金利騰貴せしも貸金業者に於て此際の貸出を警戒せしと一般金融緩漫の結果市中の金利も多少低落の傾向あり

▲元山 市場の好況に伴れ貸金業者間の金融も漸次繁忙の模樣なり

▲城津 前月來市場閑散にして金融依然緩漫なれば各貸金業者の手許潤澤にして其放資に苦み居る模樣なり

琴の音

妙子の兄

其の翌日の午後三時頃外出先から歸ると平日閑寂太古の如き吾が家は嫁でも來たか婿でも來たかと思はれる如に人がさゞめいて居る、一寸勝手が違つた樣で入りそびれて居る耳へ琴の音が響く、夫れが合奏の如だ、おやない確かに二面の絃の夫れだ。折角の所へ飛び込んで興を殺ぐでもないと庭傳ひに反對の方へ回つて置き棄てゝある籐椅子へ上衣もチヨツキも脱つて履を下した、新緑を洩るゝ日の光りのやゝ暑きも夏の近きを語り顔である、只つた一本あつた八重櫻の花もモウ名殘りなく散つて香雪は風に渦いて居る。夢の如に琴の音が通ふ。

「尚數知れず見し花の、名殘りぞいとゞなつかしき。」

曲は既に半だ、唄は妙子、此の曲は「て寒のくれ」とか云ふのである、近く來の内に率されて「惜春」の曲を聽くに知れぬ感慨の來往を禁じ得られぬ一期忘られず見し花の、熱き涙の頬傳ふを覺ゆる。

「名殘りぞ、いとゞなつかしき。」

花も人も戀も皆に散りての後にありし日のありし俤を偲ぶときに初めて誠のなつかしさ思ひは味はるゝものだ。どう思ひつゝ立ち上つた時、座敷の方に當りて五七人の華やかな笑ひ聲が起つた所う云ふ現象の我家に起ることは稀れなので、一種不安の念が起つたので縁傳ひにヅカ〳〵と踏み込む、夫れと見て妙子は爪を脱して座を向け直した。

「れ歸りなさいまし」と相變らず慇懃に、面を上げるとツト向き直る、斜に縁を背にして琴に對して居らるゝ令嬢に、

「れ話し致しました、兄樣が戻りましたの、御挨拶を致します」

婦人の耳はチヨト紅を潮した、

「兄樣御挨拶を―[illegible]れ話ししました〇〇千代子姉さまです」

淑かに振向いた令嬢はスル〳〵と座を退つて明瞭に。

「れ見知り下さいまして」

と、座には父も母も、與四郎さんも、其のれ母さんもれ父さんも居られる、與四郎さんのれ父さんは判事だ。

時事俳評

多田千春

◎夏季亂題

一夜酒女に下戸はなかりけり
塗り替へし妙見堂や百日紅
夏深き山又山のみどりかな
片道は月夜にしたり船遊び
兎角世は情けに終る施米かな
奈良漬や魚に喰ひ飽く浦泊り
子子を押へて行きぬ驟り雨
異窟に潜れば廣き茅の輪かな

召使れ初

第百七回 黒法師

「れ前は左樣に、分らぬ事云ひ張るがの」

とれ力は身も世も無きまでに怨み

「れ察どのはそなた妹の召使でないか、然も女儀、高が女を相手にして武士の一分立てやうと云ひ張るちやの」

「相手に嫌ひござりませぬ、假し民蟲でござりませうとも、不禮を恕す理はござりませぬ」と佐十郎は一言に云ひ切りて「改めて鶴兵衛に云ひ入る、れ察を渡し呉れやうの」

「されはでござります」と鶴兵衛は返事に困りて「私からは什麼とも申し上げること鑄りませぬ」

「れ察はそなた娘分でないか、親の手から娘を取り返すに、什麼の仔細もないでないか」

「うなたまだ云ふか、れ父樣よりれ勘氣受けた身、恥辱と思ふ樣も無く、ようも〳〵左樣なこと云はれたの」とれ力は涙に濕ひ目を睜て「私が許さぬ、れ察どのを手渡しなど、左樣なこと私が許さぬ」

「あなた左樣に仰せあれば、私にも存じ寄りござります、此上は御願ひ致しませぬ、れ母樣にも鶴兵衛にも此事願ひ致しませぬ」

「そなたも武士の端に列り、高が女人を相手にして、意地を立てる樣な事では、末始終案じられる、も少し、も少し心を高う持ちや喃、も少し心を高う持たずば、假へ仕官の望み協ひて、鎗突かせる身になつても遂には心錆びやうぞ、骨も名も錆が付かうぞ」

「何事も申し上げませぬ、私の身に錆がつくか光がさすか、長い目で御一覽鶴兵衛は如何やら申すとも、れ母樣御意見はござりまするとも、恨みはきつと返します、れ察を彼のまゝには致し置きませぬ、先年彼の女、浪人者に取り圍まれ、已に操を玩ばれうと致した處、拙者行き合せ、危急を助けた事もある、その恩誼さへ忘却、武士の面に泥を塗たは、重ね〳〵憎い仕方、重ね〳〵許し難い大罪でござります」

「そなた左樣に云へば、私はれ察どのに味方、れ察どの一身を守護して見せる」とれ力も顔を眞赤にして「母子敵と味方になるも、前世の因縁、是非もない事でござります」

「こりや早やれ察どの事について、與一機と若旦那樣、れ物爭ひとならせられては、私不本意でござります、明日にもれ屋敷へ便りあれば、れ察どのへ申し入れ、若旦那樣御主君の立つやう致しまするで、此場は私へ任せを下されませぬか」と鶴兵衛は既ひ込んだる口調なり。

佐五右衛門は此場の紛擾を知らぬ如く他を向きて一言だも故障せざりき。

「切角ぢやが、町人のうなたには任されぬ、それとも れ察を拙者の手へ渡すかの」

「これ」とれ力は苦げに呼び掛け「鶴兵衛どの早や何事も仰せられな、佐十郎は武士でない、武士で無い、兩刀は帶しても、其の心が武士で無い、れ察どのれ身について、私に構はる事もあるで、此まゝに捨て置かせ」

「然し、それでは………」

「はて、私に構はることもある」とれ力は鶴兵衛を押へるやうに、鋭く目を屢叩きつゝ、その目を佐十郎の上に轉して「親に背く不孝兒、こゝには置かれぬ、早う立ちやの」

「れ同樣くどもれ暇を致します」と佐十郎はすつくと立ちて、足早に立ち去りき。

後にはれ力無念の涙、佐五右衛門の眼立も涙、鶴兵衛は悄然して、二人の間に座り居たりき。

京城新報

地方官吏の戒飭 特に北鮮に於て

[illegible] …… は、彼等にして自已の非を悟らざる限りは敢て不思議とするに足らざる、之をして等閑に附し去らんか、北鮮の政治の根基を崩壊せしむ、豈寧心に堪むや。…… 或は辯せん、北鮮の日鮮間には奸譎にして不逞の …… 視るにあらずんば焉 …… 西班牙葡萄牙の殖民政策が失敗に終りしも、要するに斯る官吏を以て殖民地を善導することを忘れたるが爲なり、今や朝鮮の施設に就き、内外の施設は人民を化育し善導すべきの大眼目となすべき上は、在勤官吏に不心得者の勤務は半島統治の前途に …… のなりとす、寺内總督の訓示の効果を顯著ならしめんには此等に對して充分なる戒飭を加ふるの必要なしとする乎。

…… も不可なき也、…… 民との間に軋轢の絶 …… 等官吏が、自ら圖 …… あるが爲に自已の地 …… ものにして云ふ觀念を …… 事を云はるゝも、之れ …… するが本分なりと必 …… ならざるなり。殊 …… をもって此弊風最も甚 …… 鮮地方の如き交通不 …… なる官吏の在勤する …… も刺戟少なきを奇貨 …… 無爲蹈の陋習を襲取 …… [illegible]

東京電報

保險法大改正
商法改正に關聯し現行保險業法に根本的改正を加ふる事に決したり

東宮巡啓期未定
東宮殿下は …… 奥北海道行啓の御豫定なりしも …… 可なきため御出發期未定なり

兵學校卒業式
海軍兵學校に於ては十八日北白川宮御臺臨の上卒業式を擧行し優等生に恩賜品を賜はりたり

同盟條約と上院
日英同盟條約の改訂に關し貴族院の有力者は何等の批評を試むるなく傍觀の態度を取り居れり

皇孫御避暑
第三皇孫光宮殿下は御避暑の爲め十八日午前九時上野御發車伊香保に成らせられたり

王世子明日發
昌德宮若宮王世子殿下には來る二十日午前九時五分新橋發信越兩方面に御見學の爲め旅行せらる

軍艦薩摩珍事
第一艦隊旗艦薩摩は青森灣内に於て演習中十二吋砲尾栓に故障生じ艦員十六名即死せりとの公報ありたり

候補生航海練習
十八日海軍兵學校を卒業したる學生は直に少尉候補生に任せられ阿蘇宗谷に分乘内海航海の途に就けり

四條男薨去
從三位勳三等男爵錦鷄間祗候四條隆平氏は十九日薨去したゝ危篤の報天聽に達するや特旨を以て勳二等に敍し瑞寶章を賜はりたり

雜報

●學校教官會議
八月七日より廿六日まで總督府に於て全道諸學校の教官を招集し講習會を開く事既報の如くなるが右講習會終了後京畿道廳にては該會出席の管内各教官及巡回教授者、私立普通學校長等約六十名を招集して教官會議を開き教育上實際の施設に關し夫々協議すべし

●鑛床調査進捗
農商工部鑛務課に於て目下從事中なる全國鑛床調査は漸次進捗し目下川崎技師は咸鏡南道を田村技手は江原道を各調査中にして平安道に赴むべき中村技師は近々發程すべしと云ふ

●北鮮生牛輸出
咸鏡南道新浦港にて本月二日生牛百三十三頭價格五千四百九十九圓を浦汐に輸出したり

●授産場主任會議
京畿道管内に於ける京城府外八ヶ所の各授産場主任は十九日より向ふ四日間京畿道廳に於て事務打合のため會議を開く筈なるが十九日は開會後直ちに檜垣長官の訓示あり終りて夫々諮問事項に關し協議したりといふ

●鰤漁大敷網計畫
鳥取縣の奥田龜造、澤田重太郎兩氏は巨濟島對州間の冲合にて鰤漁大敷網の許可を出願する筈にて起業者は其調査の爲め巨濟島に渡航せりと

●菅原氏轉任
當地第百三十銀行總支店支配人菅原大太郎氏は今より四年以前當地へ來任し爾來行務の整理及振興に從事しつゝありしが其功空しからず茲に一段落を附けたるを以て氏は今回安田家の總務部とも云ふべき保善社に轉ずることに決し兩三日中行李を整へ家族同道東上せらるゝ由なり

百三十銀行交迭
京城總支店支配人 入安田家保善社 菅原大太郎
本店庶務部長 任京城總支店支配人 佐野直喜
釜山支店長 任京城總支店營業主任 川井松之介
小倉支店長 任釜山支店長 井上權之介
京城支店詰 任平壤出張所長 岩橋小太郎

●製紙原料の採集
曾て本紙に報道せし總督府工業傳習所にて蘆草を原料として製紙研究中の處尚は不充分の點あるより更に研究の要あり過日釜山府廳へ向け該原料たるべき蘆草五貫目採集發送方照會せしが總浦方面蘆田の蘆草は其試驗用とし最も適當ならんとて釜山府廳にて目下採集中なりと

●墺國軍艦入港
墺太利軍艦カイザフランスジヨセップ號は芝罘大連等を經由し十七日午後三時四十分仁川に入港し碇泊中なり

●商議副會頭決定
十九日午後商業會議所にては總會を開き出席議員二十一名にして會頭選擧を延期し副會頭の選擧を行ひ深水清氏十九票を得て當選す

●仁川商議役員會
仁川商業會議所にては來る二十一日役員會を開催し理財部、交通部、商業部、工業部等の四部を設け各部員を定め向後各部擔當事項を研究すべしと云ふ

●水道復舊時期
鬱島附近に於ける破損個所修理工事は目下鈴木技師、秋田、三宅の兩技手主として之に當り盛んに第一着手として排水に從事中なるも十八日來約五尺餘の浸水は排水につれて益々增加し依然として減水せず爲めに少しも破損個所に對して應急修理を爲す能はざるため復舊の時期は何時なるやを明言し得ざる由なるが十九日午前九時頃潜水夫をして鐵管の繼手に鉛を溶かし込みて接合を企てつゝあるが午後二三時には此結果明らかなるべく若し之が成功せば一時だけの復舊を見る可く尚は一方水源地にては排水ポンプを使用して目下盛んに排水に從事中にて仁川水道よりも特に主任技手其他入京修理工事其他に應援しつゝありと云ふ

●水道聯接工事
龍山鐵道局用水道と京城水道の鐵管聯接－京城市内へ給水することに關しては十七日來殆んど晝夜工事を督勵したる結果十八日午後九時全部の鐵管敷設を終り聯接の工事茲に成りたるも文平山の配水池へ滿水せしむるには相當の時間を要し漸く全力を盡して十九日午前七時滿水となり愈々京城に送水せんとしたる十一時頃に至り聯接鐵管に故障を生じ送水する能はざりしも故障は直ちに修繕し得たれば十九日午後三時頃には十分に送水し得べしと云ふ尤も龍山配水池の所在と京城の地勢は水壓上送水を自由ならしむる能はざるため多分南大門停車場附近にて貯水し各需要者に向て夫々配水の方法をとるに至るべしと云ふ

●仁川衛生講話
十九日午後一時より仁川民團樓上に於て志賀醫學博士の衛生に關する講話あり時節柄傍聽者多數なりき

●飲料水無代配與
警務總監部にては各警察署及漢城衛生會に命じ市内一般に飲料水を無代配與せしつゝあるが應急措置として最も當を得たるもの也

●櫻井町方面配水
警務總監部にては奬忠壇及老人亭附近の清水を試驗し飲用に適すと認めたるを以て消防用ホース一萬二百尺を利用し市内櫻井町方面へ配水する事となしたり

●水害と總長の告諭
明石總長は霖雨中及び雨後の清潔法に關し又々左記十二項より成る告諭を發したり

一 浸水したる家屋は浸水の退きつゝある場合に浸水せる部分を清水にて充分洗滌し汚垢を除く事
二 浸水退きし後は窓口を悉く開放して大氣及び日光を通せしめ乾燥を計ること
三 日本式家屋にては床板の充分乾燥したる後疊を敷く事
四 床下の汚泥は之を除き清潔にして乾燥せる土砂と取替る事
五 浸水したる疊建具等は清水を以て充分洗ひ汚垢を去り日光に乾燥したる後使用すること
六 家屋内の不潔なる場所は成るべく消毒藥液を以て拭淨すること
七 汚水の浸入せる井戸は充分浚渫の後使用すること
八 溷濁せる井水は砂濾又は明礬沈澄法（水四斗に約八匁の細末晶明礬を投して靜置す）を行ふたる後使用すること
九 凡て飲用に供する水は煮沸すること
十 下水は凡て浚渫して汚泥を去り汚水の流通を良くし甚だしき不潔の場所には石灰乳を散布すること
十一 家屋の周圍に沈滓せる汚泥は悉く取除くこと
十二 塵芥は乾燥の後成るべく燒却すること

上半期の貿易狀況
淺野三井物産出張所支配人談

昨秋併合以來舊政の著々として改善せられ一面新警察力の普及に伴ふ草賊等の減少に連れ久しく悲境に沈み消極手段を以て事業を企圖するを能事とし何等案出する處なかりし朝鮮人等の多くは漸やく覺醒せしものゝ如く俄然內地人の事業勃興に連れ各種の資金流通潤澤となり恩賜金下私議租免税等並び行はれたる結果內地人と共に朝鮮貴族の恩賜公債賣却代金を以て不動産賣買行はれは其の餘波各種の需要高頓に激甚したり即ち本年度朝鮮全土に於ける貿易額輸移入に於て前期に比し五割四分方の增加を見たり而して其の輸移入品の重なるものは金巾二百五十二萬餘圓にして之れを前期に比すれば約五十餘萬圓の增加を見同砂糖六十餘萬圓麥粉二十五萬餘圓洋傘二十五萬餘圓にして孰れも前期に比し五割以上の增加を見たり、翻って之れを當期中に於ける輸移出額に對照するときは實に二千餘萬圓の輸移入超過を示せり之れ前述の如く一般朝鮮人の金廻り良好なりし顯著なる事實なるべし隨て昨今新聞紙上に於て散見するが如く各種銀行業者の繁忙を告げつゝあるは之れ自然の趨勢にして何等異となすに足らざるべし尚は鮮土に於て產出する大豆米穀の多くは從來日本內地にのみ移出さるゝを以て主なるものとなし居たるも昨今滿州方面に新販路開かれたるを以て今後は相場の上に於て大なる打撃を受くる憂ひなきと新政の進歩に伴ふ生產商工上に於て新生面を開かるゝに至らばより以上最も喜ぶべき狀況を見るに至らん

●京義線不通
連日の豪雨の爲め京義線南市良策驛間上高川增水し終に十八日の終列車より不通となりしが二十日中に開通の見込なりと

●馬山平南線今尚不通
豪雨の爲め線路破壞せし馬山線湖南線平南線は今尚不通にて一兩日中は開通の見込なし

●平壤水害大混雜
十九日午前七時平壤發當地淺田洋服店に達せし電報によれば同地の出水は一層劇甚を加へ各戶の床下に浸水するに至り市中大混雜を極めつゝありと

●東洋煙草會社
大阪市の有志は資本金三十萬圓を以て東洋煙草株式會社を設立し現在朝鮮にて營業しつゝある東洋煙草商會を買收し其事業を繼承する計畫中なり

●神永氏結婚披露
朝鮮商業銀行副支配人神永敬吉氏は過日新夫人を迎へたるを以て其披露の宴を十八日午後六時半より京城ホテルに於て開催せり當夜招待に應じ出席したる紳士淑女其數二百餘名宴酣ならんとする頃盤山縣氏起つて神永氏及孝子新夫人を改めて一同に紹介し續いて來賓總代藤原度支部財務課長東京高商同窓總代淺野三井物産出張所支配人及び同鄕者總代峯岸本社長等の祝辭演說あり終つて藤原氏の發聲にてシャンペンの杯を擧げ新郎新婦の健康を祝し後ち筑前琵琶及び三好氏の祝言の謠等ありて散會したるは午後十時なりし

●日韓瓦斯總會
日韓電氣瓦斯會社は來る八月下旬臨時總會を開き資本金三百萬圓增資の件を議し更に九月中旬總會を開き上半期決算報告及利益配當等を行ふ由

●總督府醫院の繁忙
近來總督府醫院は極めて繁忙を極めをれるが院に診療を乞ふ者多く分院の執務時間を開くに外來患者は午前八時より正午迄にして入院患者の診察は午後とし急患者は時間に制限なく又日曜日は當直醫に於て診療投藥又は入院の需に應ず可と

●麻浦東幕間の橋梁完全
麻浦東幕間には過般長サ三十一間幅二間の橋梁を架設し盛んなる竣成式を擧げ一般通行者に少からぬ便利を與へつゝあるが該地は漢江の流域にあるを以て出水期には浸水の難を避くる能はざるより其設計を浸水橋となし橋板と間を五分宛隔て敷き板、桁、梁、橋脚等を十分に聯結して水壓に耐ふる事とせしに果して去る十六日以來は出水は殆んど二丈四尺に達し橋面二尺以上の浸水を見たるも何等の破損なく充分に橋梁維持の目的を達したるため工費千八百余圓を費したる効果良好なりとて村民非常に喜び居れると云ふ

●南大門外電車復線期
所報の如く南大門道路取擴げは愈々來月早々工事着手の筈なるが日韓瓦斯會社は同工事着手と同時に南大門外電車復線工事に着手すべしと

●鮮人教師の講習會
京畿道管內に於ける普通學校及私立學校の鮮人教師に對し漢城師範學校に依頼し來る二十四日より一般教授法及農業上講習の爲め夏期講習會開催の筈なるが出席者は約四五十名以上なるべしと云ふ

●龍州憲兵隊長の入京
平安南道警務部長に新任されたる大橋憲兵少佐は十八日入京二三日滯京の上赴任すべしと云ふ

●岡崎氏の東上
朝鮮商業銀行總會は八月下旬より開會に付同行專務岡崎遠光氏は八月十日頃當地發約一ヶ月間の豫定にて東上すべし

●村井大尉の歸任
久しく露領及北鮮地方へ出張中なりし警務總監部の村井大尉は明廿日頃歸任すべしと云ふ

●平壤元山間街道通行杜絶
頃日來打續きての降雨にて平壤元山間道路殊に龍川郡倉洞より梧柳洞に通ずる道路並に德川郡价川郡は洪水の爲め通行杜絶し何日通行を見ることゝなるや未だ測られずといふ

●釜山煙草賣買不成立
本年三月以來東京の伊藤某と釜山煙草株式會社との間に賣買の交渉しつゝありしが該交渉は本月十五日迄に契約書を取替す筈なりしに買主側に於て其運に至らざりしを以て伊藤某との交渉は終に斷然之れを絶ちたりと

●敍任辭令
任總督府道事務官 四等 三級俸下賜 京畿道內務部長を命す 度支部書記官 有賀光豐
命度支部關稅課長 內務部書記官 深尾道郞

公人私人
▲朝比奈貞英（機械士）十八日巴城ホテルへ
▲鈴木金助（中央新聞記者）十八日天眞樓へ
▲北井波治目（辯護士）十八日京城ホテルへ
▲渡邊芳藏（辯護士）同上
▲大園又三（龍州憲兵隊憲兵少佐）は漢城旅館へ
▲小島銑（開城農銀支配人）同山本旅館へ
▲小山七郎（農銀支店長）同浦尾旅館
▲申應熙（咸南道長官）十八日釜山行
▲服部親信（咸興憲兵隊長大佐）同同上
▲嘉納三治（安東每夕新聞記者）同同上
▲菅野十太郎（木浦民團會計役）同木浦行
▲若松兎三郎（釜山府尹）同釜山行
▲楠野俊成（仁川府尹）同同
▲本田常吉（鎭南浦府尹）同平壤行
▲竹崎六太郎（大邱府尹）同大邱行

仁川港出入船舶
二十日鎭南浦へ向出港 ▲武州丸
大阪へ向出港 ▲秀吉丸 同

▲京城手形交換高▼
七月十九日 金高 九九、六二一、五七〇 枚數 四一二

▲京龍兩驛の貨客▼
▲南大門驛發着高（十八日分） [illegible]
▲龍山驛發着高（十八日分） [illegible]

▲治外法權▼
近頃の金融緩慢は非常なもので、或古參者の言によると、ドウしても京城居留地開始以來殆んど無い事だソウナ、併し金融の緩慢な割合に、事業の起らぬのは何の爲か▲曰く此頃の天氣ではないが天の一方に今尚は低氣壓ありて事業は決して起らぬ、金融さへ緩慢なれば、事業が直ちに起るならんと、速了するのは、人間の心理的狀態を解せざるの沙汰だ▲當地の各銀行中資本の大を以て雄を稱して居るのは韓銀を第一とし、次を漢城銀行とす、韓銀は中央銀行との事なれば、コハ別として、漢城が何の爲に三百万圓と云ふ、尨大な資本を擁して居るのかが疑問だ▲サテ漢銀が資本が多過ぎ遊金が多過ぎ、併も業務の閑散なるに困って居るとは事實だ、ソコで同行當事者等は救濟策に付き、鳩首凝議の結果、遊金を以て、五分利附き大藏證券五十万圓を買入れた▲アー五分利附の恩賜公債を株金に換へ、而して遊金を作り、ソレで五分利附大藏證券を買入れた漢銀當事者の理財的手腕や必ずしや後世恐るべしだが、今期の配當額が增資前より劣いのは是非もない次第だ▲朝鮮商業銀行の大番頭神永敬吉の結婚披露の宴會に於て藤原、淺野、峯岸の三人が代る代る祝辭を述べた、或人傍らより評して曰く、今夜の祝辭者はドウ云ふものか揃も揃って額の禿げが不明なりと、而かも三人共好男子の新郎と較べられてはコールド▲神永に續いて韓銀の須田も近きに結婚すと、米價の騰貴を恐れずして娶る彼等は眞にソレ勇者か。

（第三種郵便物認可）　明治四十四年七月二十日　京城新報　（木曜日）　第七百卅四號　三

京城藝妓の半生　花月樓　勝利（三）

石井君のサツと掛けた情の網にサツロリ握つた勝利の其後は定まりの大道上、之れが相手が石井君だから仕合せだつたので若しも性の惡い先生であつたら夫れこそ大變であつたのだが幸に石井君は紳士であつた他の弱點に乘じて之れを欺し遊ぶ程に下劣でなかつた、以上の三人の旦那方偶には落合ふ事もあるが實所は勝利である位だ相な、左樣して此れが長く續けば甘い工合に續なして一寸とも穴を穿けなかつたには流石の仲居も舌を卷いた勝利大勝利であつたらうが「歡樂極まつた哀情生ず」三十日と一日や背中合せ」だ、錦一號の旦一葉君は日本墟業會社の支配人として大坂に歸ることになつた、一葉落ちて天下の秋を知るではなく、勝利の霜枯を知るだ、決して洒落や戲言では御座らぬかられ氣の毒である、續いて石井君は夫れ御存じのアノ美しい妻を迎へになつた、石井君元來が愚癡に出した手でもある引つ込め樣と思へば何時でも引つ込められるのだ友達に意見をされるにも及ばず親に心配させるにも及ばずだ、美しい溫和しい戀女房の顏を見ると同時にフツと忘れて終つたのは無理もない、敢て此の妓には限らぬが世に女程自惚れの強いものはない委し〳〵は他日說明の機會もあらうから此所には略するが兎に角一時は勝利も「此樣筈では無かつたが、ア、アツ男心と秋の空オヤ〳〵チヨイチヨイ變るものだ、組み難いの人心ぢやなア」と浮世を悲觀した間もあらせず藤木君今では秋とも杜とも賴んだ京城へ來て終つたので全く困つて了つたが只困つて斗り居ても默目と實所は根が賢い妓だけに思案の揃をシツクと固めて四十二年の九月と云ふに現の花月に鞍替へした當時古城菅堂君が同樓の名妓と唄はれた千代に思召があつたのを「此奴鴨」と以心局の傳心を發した處曾尾能く古城君の受取る所となつて情約は締結されたので大得意で居る內れ千代は大阪の豪商某を手に入れ落籍された現に大坂は新町に花月と云ふれ茶屋を營つて居るのだ、夫れは夫れとして此れは勝利古城君を一本鎗に他に心を散さず大切に取扱つて居たのだが間もなく男心に秋風立ちて碌々遊びに來ぬので又候ツク〳〵浮世の味氣なさを身一つにしめて氷室の絲屑の樣に濕々と日を送つて居たが來てる民長あれば助ける商人あり今では誰さんとやらを大切にして居ると申す。次は駒江事

青首なり取り逃す可らず

松葉亭の時松

●水道斷水の責任

▽天災か不注意か

京城水道の斷水は十八日午前八時にまり多分十九日中には通水するならんと云ふも果して然るや否やは通水後ならでは確信し難し井は兎に角として今回の斷水は不可抗力なる天災に原因せること無論ならんも當局は注意を怠りたるの責は免るべからざるべし道長官は元より之れが監督官る宇佐美內務部長官も渡鮮後日尙は淺きを以て現在の漢江が降雨に伴ふ增水に依りて汎濫し浸水地區の地盤を軟にし陷沒其の他の不幸あることを熟知せられざるは其所なるべきも其の屬には或は親しく之れを見聞したる人あるべし然るに本月六日より連日の雨に會ひても關心する所なく十七日に至り貯水池の減水に會ひて初めて吃驚敗亡周章狼狽を極めたりと云ふに至つては當然成さゞる可らず拂はざる可らざる注意を怠りたる所なと云ふ可らず幸に警務總監部の活動に依りて甚だしき不都合を見ざるが如きも此は警務部の功にして水道當局の不注意を減耗するものには非ず況んや此れに依つて或る種の職業は休止され不順の候一般市民に[illegible]の念を懷かしめたるに於てをや、[illegible]城水道の未だ外人の手に支配せられし[illegible]施設せる水を[illegible]たる際の如きは官憲は其の無責任を**詰責**[illegible]も甚しかりしに現は[illegible]を以てか斷水の模樣[illegible]局の復舊工事に對す[illegible]に急にして人民の害[illegible]說あるは如何のものにや。

●いろはのれてる

▽新聞に出たのが幸

[illegible]稽圖敍男の女主人公[illegible]白糸の八人廻しと迄[illegible]いろは亭の酌婦れて[illegible]かれたのが其の身の[illegible]の評判となり大流行[illegible]し然るたに又もや姫[illegible]置て體ては身に添ふ[illegible]も彼が得意の十八番[illegible]られてたてるならで[illegible]入揚つ〳〵あるは某大[illegible]が全身の情愛は之れ[illegible]新調したる二十二金[illegible]り然るにれてるが此[illegible]立する心根の有る善な[illegible]を負ひしは宮町通りの[illegible]主人公最早四十の阪を[illegible]の男妻子ある身を打忘[illegible]部の香水や櫛や石鹼じ[illegible]入れて道つてはれてる[illegible]はれてるの許に通ひ[illegible]ありとか年甲斐もな[illegible]前愧ず大浮れの體は[illegible]らずと噂のまゝを

●夫婦伴れで金拾ひに

▽[illegible]出さして行く途中

仁川本町四丁目石田下宿店の客引生田[illegible]は同家の女中古川せん（二十）と[illegible]乙な交情になり夫婦[illegible]で居たがドーモ人の[illegible]面白くないと思ふて居[illegible]に行くと澤山金が落[illegible]ら牡丹餅の樣な夢を[illegible]を整ね十八日二人連[illegible]け仁川冲から船に乘[illegible]龍山の鐵道官舍戶田[illegible]の姉がコレマアれ前何[illegible]者の心得違ひな私[illegible]れ前が逃げると云ふの[illegible]て來た處マー歸りや[illegible]否ね私は生田さんの[illegible]と云ふ事は聞きません[illegible]惡らしい神樣も有た[illegible]ンタの爭ひの結句[illegible]に連れられて龍山に[illegible]然と指をクツエて居

●朝鮮の長良川

[illegible]涼風を貪るの快に勝く[illegible]あるべしと雖ども[illegible]もの多からざるべし我が朝鮮の地巨川大江に乏しからず此れを北にしては鴨綠、大同、臨津、漢川の諸流あり南には漢江、錦江、洛東、蟾津の諸流あり之れに相當の設備を加へて夏時都人士の來遊を促すは流域に位置するものゝ努むべき道なるべし殊に洛東の枝流南江（密陽に沿ふて）錦江の上流芙江（公州及び芙江あり）大邱の琴湖江の如きは唯に景勝に富むのみならず香魚鮮を[illegible]なし潑剌として綸に從つて中空に躍るの快ありと云ふ若し其地方人士にして鵜匠を此の地に移し金華山下岐阜長良の夜景を諸地方に現出せしめば直接夏時の殷賑を來すのみか延いて地方開發上に資する所尠なからざるべし

●逃亡藝妓捕はる

原籍大阪市西區三軒屋上の町百六十九番地生れ京城中の新地玉の井樓娼妓平戶とも（二三）は四十三年十一月より中の新地玉の井樓事田喜音吉方より前借金三百圓にて第二種藝妓として出稼中の處本月十三日午前十一時頃逃亡行衛不明中の處此程龍山鐵道官舍中島金一の貸家に居ること龍山警察署の探知する處となり現場より直ちに前記樓主音吉へ引渡さる因に同人は京城旭町一丁目廣瀨館止宿石工業大野重太郎なるものは同人の馴染客なれば多分此者と示し合せして右の始末を演せしものならんと

土州山、千年川、鳳　取締友綱貞太郎
横綱太刀山、[illegible]山　式守伊之助　伊勢濱

●不量見の元は女

龍山水道町陸軍倉庫雇傭人合同宿舍第四號室糸井寅吉が英ネル單衣、綿大島絣給一鼠色縮緬兵兒帶一此價格金約二十圓を竊取せられし事は當時の本紙上に記載せしが該犯人は京城永樂町二丁目三百四十番戶無職中野勝吉（二〇）なる者にして同人は京城米倉町菓子商中島倉三郎方の傭人にして本月十二日午後一時前記糸井方へ忍び入り竊取せし物品は京城吉野町工藤質店へ入質し豫て馴染居たる新町奈良屋の君子の許にて浮れ居たる處を龍山憲兵分隊の手に探知せられ此程檢事局へ送らると

●烈風雨警戒

連日の降雨も十九日を以て晴れたれば最う大丈夫ならんと思へるは糟喜びで十九日京城測候所の報ずる天氣豫報は實に左の如し

●風雨烈しかるべし●低氣壓は齊島附近に在り七百三十六粍、●進行方向は北東●警戒區域は朝鮮全部

因に來るべき烈風雨の警戒は朝鮮全部なるも就中北鮮即ち鎭南、元山方面は被害甚しかるべしと

●大角力初日入掛

●行違ひから告訴

報德湯主人久保六三郎が朝鮮人を詐欺したる事件にて其の筋に取調中なる事は既報せしが該事件の眞想は久保田が告訴人なる鮮人に家を貸し置きたるに家賃の滯りあるより催促せしに命策の上明渡すと稱し家出の儘行衛不明となり其の后借受人ありたるより該鮮人の荷物を久保田が引取り保管せしを意思の行違ひより橫領罪として告訴せしものにて双方解決の上告訴取下げたりと

●旅館組合の寄附

行路病者收容所に收容されし者が衣類なく悲慘の狀態にあるも出處なき爲め南部署長は旅館組合及料理組合に衣服類寄附を促したるに心よく應じて夫々寄附したる由なるが中にも浦尾旅館天眞樓は特別に寄附したりと

●無鑑の太夫は拘留

既報新町遊廓大和新地巴樓の無鑑札娼妓須山れつ（三二）の問題は取調の末樓主奈良田定次郎及本人たつは各拘留四日に

●はるの山風

仁川花町一丁目料理店菊水樓中村よし方酌婦白妙よし（十九）は仁川港碇泊の漁船夫白木與佐市（三五）に一夜金一圓五十錢にて賣淫し同金中警官に踏込まれ同仲居高田つる（三一）は兩人に對し媒介の廉を以て共に告發さる

●大相撲の宿割

十八日午後八時十分南大門着入京したる大相撲一行の宿割左の如し

▲天眞樓　友綱、熊ヶ谷、花籠、外に計八名▲不知火旅館　橫綱太刀山、土州山、上ヶ汐、有明、玉の川計二十名▲不知火旭町一色目支店　寒玉子、加勢山、海山、放岩、入ヶ房、二所の關計二十名▲原金出店　鐵甲、大崎、金の花、能登ヶ嶽、山ヶ崎、勝田錦計二十八名▲東海旅館　鏡川太刀の香計六名▲九州旅館　行司式守伊之助、式守勘太夫、木村大藏、木村庄吾、木村惣太郎計十二名▲三日月旅館　陣立平の石尾車計十五名▲原金旅館　大國國見山、前田黑瀨川計十二名▲櫻屋旅館　五十嵐、小放、五所車、鬼ヶ崎、一陣、勝之浦計十四名▲不二屋旅館　前田鳳、大蛇潟、綠島計十二名▲本田旅館　甲、玉の井計十六名

●演藝だより

●壽座　歌舞伎座に於て開演大入の好人氣を博したる木村猛夫一行は既報の如く二十日より壽座に初日を出したり狂言は彼の君子、猛夫兩優得意の劇「不如歸」と据りたり重なる役割左の如し

川島浪子（君子）山木とよ子（敷島）片岡中將（寺田）山木兵造（富士井）千鶴子（澤井）武一（小淵）武夫（木村）

▲浪花館　連日浪花光廣一行の浪花節

平民文庫

▲世の中の事は馴れるに從つて怪しき事も怪しと感せぬ樣になるもの故始めて見聞して感じた事が最も當を得たものと思ふで僕が京城で始めて料理屋へ上つて歸り掛けの時の感想から御披露する▲と云ふ投書があつた強ち無駄でも無からうで紹介しよう▲万千閒では女將と女中が式臺に座つてキチンと挨拶した▲捨葉では女將が座敷へ挨拶に出て女中は門迄送つて出た▲翆で女中が式臺へ座つて挨拶した▲淸華亭は西洋料理か溫泉宿の樣な体裁の玄關で女中は立つた儘で「左樣なら」と來たね（阿房投）▲と云ふのだが小僧何う思ふ（係）▲何うも斯うもあるかい夫れだけの話じやないか併し淸華亭の「左樣なら」は却つて味がある一切萬事親類交際つて處にね（小僧）▲七月十五日發行の家庭新聞に「キャベツの三倍」と云ふ標題があつた、元より三倍の三盃の誤植なることは明瞭だから夫れを云ふのではないが君の所の小僧君は奇智に富むから此れを一つ困らして遣りたいので此の「キャベツの三倍」を其のまゝ題にして其の答へを求める、一を三倍すれば三となるがキャベツを三倍したら何んとなるか（困太郎）▲サツとも困らんキャベツを三倍すれば「酒の肴」となる、エツヘン（小僧）▲大邱取引所は愈々許可設立に決定し又[illegible]取引所も近々許可せらるゝことに傾きたりと云ふ事だが京城釜山取引所設立のことは如何なりました（伺生）▲不許可（係）▲御方は有りませんか若し御存じの御方は當欄にて御敎へ下さい（一寄生）▲仁川停車場前の共同便所は四邊の臭やら不潔でたまらない時節柄消毒[illegible]▲仁川新町三丁目の若い女一人の仕立屋には每晩四五人の男が寐轉んで居る彼の女は博愛主義を演じるのかしら中にも松本さんと今田さんとは雨の夜風の夜でも蛇度行て居るが孰れ近い內に騷動が持上るであらう（俗話燒生）▲此の頃の天候の惡いので仁川市中に腹下りをして居るものが澤山ある一般注意肝要なり（衛生係）▲仲町水津旅館の番頭は客扱が粗暴だ主人公は知らないのかしら實に不都合の奴だ（客の一人）